

平家物語 文覚荒行

有朋堂文庫の「平家物語」は万治版の真片仮名を原として長門本をはじめ異本数種で校訂している。巻五「文覚荒行」の末尾の部分に、文覚が那智の滝での荒行の後に廻った山々が列記されている。なお、高野本・百二十句本などとも少々語句の異なりがあるのみで山名は一致している。

其後は誠に目出度瑞相共多かりければ、吹來る風も身に入ず、
落來る水も湯の如し。かくて三七日の大願終に遂しかば、那
智に千日籠りけり。大峯三度、葛城二度、高野、粉川、金峯
山、白山、立山、富士嶽、伊豆、箱根、信濃の戸隠、出羽の
羽黒、惣じて日本國残る所なう、行廻り、流石猶故郷や戀
かりけん、都へ歸上たりければ、凡そ飛鳥をも祈落す程の、
刃の験者とぞ聞こえし。

註 国立国会図書館デジタルコレクションで「平家物語

有朋堂文庫」で検索。「2 平家物語 凶書(有朋堂文庫) / 永井一孝 校(有朋堂, 1910)」の画像 143 コマ

目。DOI 10.11501/877637